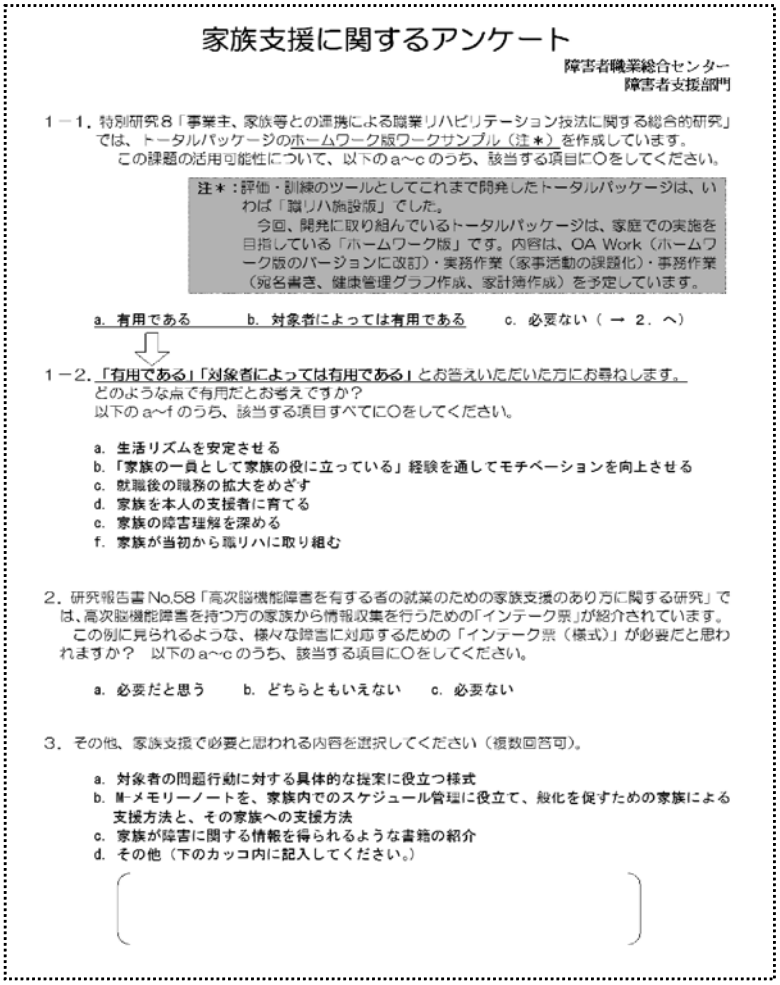
第１章　家族支援に関する関係者のニーズと課題

第１節　広域・地域障害者職業センターを対象とした家族支援に関するニーズ調査

本調査は各広域障害者職業センター（以下「広域センター」）・地域障害者職業センター（以下「地域センター」）に対し、「ワークサンプルホームワーク版」の活用可能性、家族支援を行う上での情報収集の方法としてのインテーク様式の有用性、家族支援で必要と思われる内容に関するニーズ調査を行ったものである。

１．調査対象、方法等

地域センター 47 カ所（支所を含む）、広域センター 3 カ所、計 50 カ所（回収率 100 %）を調査対象とし、平成 16 年 11 月～ 12 月に実施した。方法は、質問紙をメールで送付し、郵送またはメール返信による回答を求めた。使用した質問紙を図１－１に示す。



家族支援に関するアンケート

障害者職業総合センター
障害者支援部門

1－1．特別研究8「事業主、家族等との連携による職業リハビリテーション技法に関する総合的研究」では、トータルパッケージのホームワーク版ワークサンプル（注＊）を作成しています。
この課題の活用可能性について、以下のa～cのうち、該当する項目に○をしてください。

注＊：評価・訓練のツールとしてこれまで開発したトータルパッケージは、いわば「職リハ施設版」でした。
今回、開発に取り組んでいるトータルパッケージは、家庭での実施を目指している「ホームワーク版」です。内容は、OA Work（ホームワーク版のバージョンに改訂）・実務作業（家事活動の課題化）・事務作業（宛名書き、健康管理グラフ作成、家計簿作成）を予定しています。

a．有用である　　b．対象者によっては有用である　　c．必要ない（→ 2．へ）

1－2．「有用である」「対象者によっては有用である」とお答えいただいた方にお尋ねします。
どのような点で有用だとお考えですか？
以下のa～fのうち、該当する項目すべてに○をしてください。

a．生活リズムを安定させる
b．「家族の一員として家族の役に立っている」経験を通してモチベーションを向上させる
c．就職後の職務の拡大をめざす
d．家族を本人の支援者に育てる
e．家族の障害理解を深める
f．家族が当初から職リハに取り組む

2．研究報告書No.58「高次脳機能障害を有する者の就業のための家族支援のあり方に関する研究」では、高次脳機能障害を持つ方の家族から情報収集を行うための「インテーク票」が紹介されています。
この例に見られるような、様々な障害に対応するための「インテーク票（様式）」が必要だと思われますか？　以下のa～cのうち、該当する項目に○をしてください。

a．必要だと思う　　b．どちらともいえない　　c．必要ない

3．その他、家族支援で必要と思われる内容を選択してください（複数回答可）。

a．対象者の問題行動に対する具体的な提案に役立つ様式
b．M-メモリーノートを、家族内でのスケジュール管理に役立て、般化を促すための家族による支援方法と、その家族への支援方法
c．家族が障害に関する情報を得られるような書籍の紹介
d．その他（下のカッコ内に記入してください。）

（　　）

図１－１　広域・地域センターを対象に行った「家族支援に関するアンケート」質問紙

２．結果

（１）設問１－１「ホームワーク版の有用性」について

ホームワーク版の活用可能性について、有用性という点から、図１－１の質問紙に示した選択肢による回答を求めた。その集計結果を図１－２に示す。それによれば、「有用である」「対象者によっては有用である」を併せて、ほぼ 100 ％のセンターから有用性があるとの回答を得た。

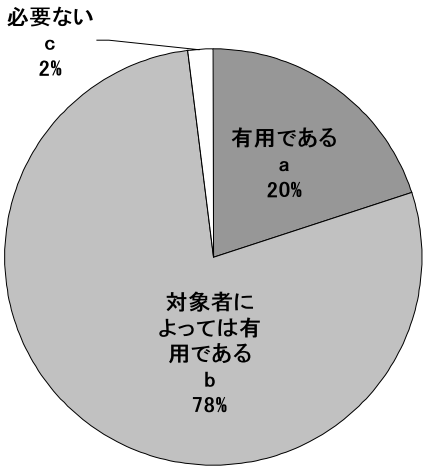


図１－２　「ホームワーク版の有用性」n=50

（２）設問１－２「ホームワーク版が有用だと思われる点」について

設問１－１で a「有用である」または b「対象者によっては有用である」と回答したセンターに対し、どのような点で有用だと考えているのか、図１－１に示した選択肢 a ～ f について該当する項目全てについて選択式で回答を求めた。その集計結果を図１－３に示す。それによれば、「e. 家族の障害理解を深める」「d. 家族を支援者に育てる」「a. 生活リズムを安定させる」の順に選択された数が多かった。

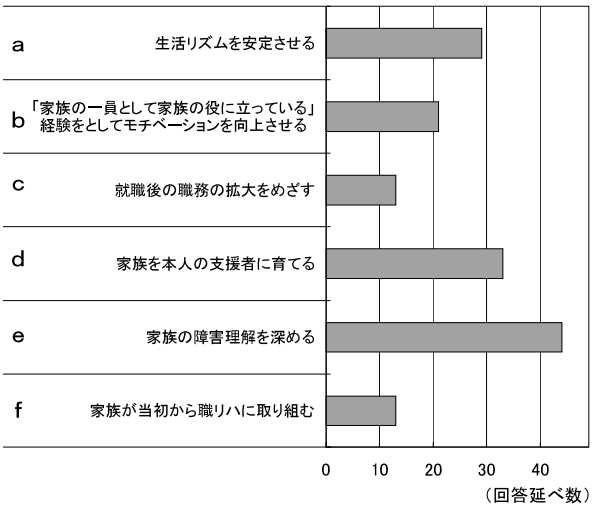


図１－３　「ホームワーク版が有用だと思われる点」（複数回答可）n=50

（３）設問 2「インテーク様式の必要性」について

様々な障害に対応するための「インテーク票（様式）」について図１－１の質問紙に示した選択肢による回答を求めた。その集計結果を図１－４に示す。それによれば、8 割弱のセンターからインテーク様式が必要とする回答を得た。

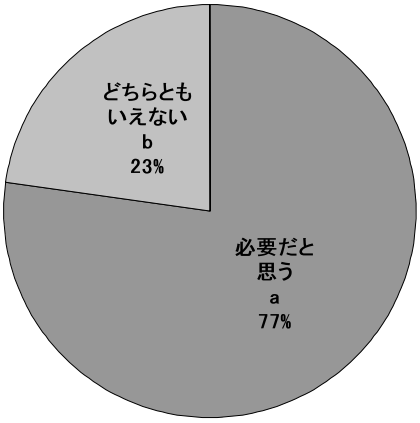


図１－４　「インテーク様式の必要性」n=50

（４）設問 3「家族支援で必要と思われる内容」について

その他、家族支援で必要と思われる内容について、図１－１に示した選択肢から該当する項目全てについて選択式で回答を求めた。その結果を図１－５に示す。それによれば、「b. M-メモリーノートの支援」「a. 対象者の問題行動に対する具体的な提案に役立つ様式」が多く選択された。

また、図１－５のうち「その他」の回答として得た自由記述の内容を表１－１に示す。『冊子（資料・Q&A 等）による広い情報提供』『家族との関わり方について』『関係機関との関わり方について』を必要とする回答が多かった。

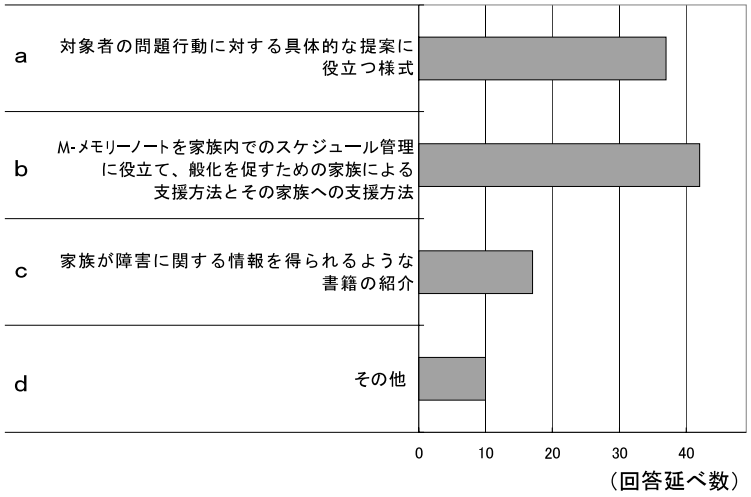


図１－５　家族支援で必要と思われること（複数回答可）n=50

表１－１　図１－５の d「その他」の自由記述内容

① 冊子（資料・Q&A等）による広い情報提供
・就職時や定着時における事業所及び本人と家族の関わり方を分かりやすく示した資料
・地域の各々の社会資源について具体的な支援内容が理解できる資料
・家族支援の事例紹介
・家庭支援の重要性についての家族向けの資料
② 家族との関わり方について
・標準的な支援・相談の進め方（医療機関で採用されているクリニカルパスのようなものの例示）
・障害により生じる職業上の困難さに関し、家族が理解しやすい、工夫された説明方法
・知的障害者やその家族が使用しやすい服薬管理のツールやノウハウ
③ 関係機関との関わり方について
・家族支援のための関係機関との連携、役割分担の明確化について整理されたもの

第２節　家族会・支援施設へのヒアリング結果

１．調査対象

6 都府県 6 機関（学習障害 1、発達障害全般 3、脳外傷 1、精神障害 1）に関係する計 17 名を対象とした。その内訳は、【家族会・支援センター代表者：学習障害 1、発達障害全般 4、脳外傷 1、精神障害 3】【当事者と家族：脳外傷 1、精神障害 7】となっている。

２．調査方法

郵送・E メール・対面のいずれかで表１－２の項目により半構造的インタビューを行った。郵送の場合には、内容を補足するために電話での追加質問を行った。

表１－２　　半構造的インタビューの質問内容

質問	内　　容
1	家族支援に関すること
	① 家族が本人の支援のために行ってきた、行っていること ② 今後、職リハを進めていく上で家族が行う必要のある支援 ③ ②を行う理由 ④ 家族支援を行う時の具体的ツールの必要性、そのツールの内容
2	トータルパッケージホームワーク版に関すること
	① 活用希望の有無、活用可能性 ② 活用可能性の根拠
3	情報整理・伝達を行うための様式についての有効性
4	その他、家族が必要性を感じる支援
5	所属団体における職リハ場面での家族支援等についての取り組みの有無

３．結果

（１）質問 1 ①～③

脳外傷の家族や支援者は、病気や障害の理解について、医療機関での説明よりも、家族が本人と日常生活で接する中で時間をかけて障害を理解することが多いことから、受障前後の変化を理解するために同じ障害を持つ当人・家族らによる支えや、長期的な認知リハの支援が必要だと回答した。

また、発達障害や LD の家族や支援者は、家族は本人に小さい頃から接しているため、障害の現れ方や対処方法を理解・実践できるが、成長するにつれ、家族以外への相談・支援の依頼を可能とする必要があると回答した。その理由として、親の高齢化、親が抱える長年の疲労への配慮、親には相談しにくいことへの配慮（本人の気持ちの尊重）をあげていた。

一方で、精神障害を支援する専門家は、本人の職場環境・作業環境を整えたり、ストレスへの対処方法の指導が重要だと回答した。また、精神障害のある本人を支援する家族は、本人が仕事に集中できるように日常生活の家事を支援する、本人がストレスを溜め込まないように相談相手になる、医師への相談援助を行う、病気や障害に関する知識を本人へ付与する、経済的援助をする、といった直接的に職リハに関することよりも、生活全般の支援に注目している様子がうかがえた。

（２）質問 1 ④

全てのヒアリング対象機関が家族支援を行う際にツールが必要であると回答した。精神障害の家族からは、本人に対してどのように接すればよいのかを整理した情報や、家族が関係機関の担当者に接する時のポイントを整理したチェックリスト等の冊子の希望があった。また、ヒアリング対象者に共通していた要望として、具体的ツールとしてホームワーク版のような作業課題を実施する際には、課題実施のノウハウ提供と課題実施をフォローする専門支援者の必要性があげられた。

（３）質問 2 ①～②

約 9 割のヒアリング対象者が、トータルパッケージのホームワーク版は、「生活リズムを安定させ

る」「モチベーションを向上させる」「家族・本人が積極的に職リハに取り組むことができるようになる」という効果が期待できるとし、活用可能性が高いと回答した。

（4）質問 3

情報整理は、約 9 割のヒアリング対象者から重要だという回答を得た。その理由としては、何が重要な情報なのか家族は理解していないこと、支援機関毎に同じ説明をすることが多いことから、簡略化と正確性を求めるため情報整理が必要であるとされていた。また、情報整理の様式を多様な障害に活用するために、多様な障害に対応するよう配慮した質問事項を追加することが求められた。

また、障害を持つ本人と家族が客観的に自分たちの行ったことを MSFAS に記述し家族ミーティングに使用するための様式の作成を希望する意見もあった。

（5）質問 4

関係機関の全体のシステム、利用の仕方、窓口などを整理した情報が欲しいという意見の他、本人の健康状態の把握や服薬に関する知識についての支援ニーズがあった。また、書籍等の紹介については紹介そのものよりも、本人の状態に結びつけて理解が進められるかが課題だという意見が多かった。

精神障害のある本人の家族からは、家庭内でのスケジュール管理のためのメモリーノート活用についての支援や、本人の行動改善のために MSFAS を活用の可能性が示唆された。

（6）質問 5

所属団体の取り組みについては、①地域のコミュニティと連携し簡易作業、喫茶店開業等の就労を見据えた活動、②会の冊子をまとめる等の情報収集と発信、③支援ネットワークの形成、④就労支援施設での就労相談・支援、⑤障害についての学習会開催、があげられた。

第３節　まとめ

地域・広域センター、ならびに家族会等への調査の結果から、トータルパッケージの教材は支援ツールとして多様な支援目的のもと多様な障害を対象とし広く活用されていること、ホームワーク版には「教材」としてのニーズが高いことが明らかとなった。以下にその概要をまとめる。

１．ニーズの整理

（1）教材の開発と活用方法の提案

家族には、「就労支援の専門家による『教材』の具体的な活用方法の提案」や「教材活用期間中の面接をはじめとした定期的な関わりの実施」のニーズ、「障害のポイントを整理した家族向けの冊子」といった障害を学習するためのツールが、地域・広域センターには、「障害の補完方法を家族に伝達する時の支援方法」についてのニーズが見られた。

（２）情報整理・伝達のための様式とその活用

家族に、MSFAS の改訂による「知的障害・発達障害の対象者がより活用しやすい MSFAS の作成」や「MSFAS の活用方法の更なる提案」のニーズと、「本人と家族の行いを客観的に整理・ミーティングするための様式作成」のニーズが見られた。

（３）障害理解を深めるための支援

書籍等の情報提供に加え、家族には「本人に結びつけた障害知識の理解を促す支援」のニーズが、地域・広域センターには「家族支援の重要性や具体的な家族支援の方法を示す資料」のニーズが見られた。

（４）地域の関係機関情報・活用方法の伝達・支援

家族には「各支援機関の情報と活用方法についての情報提供」のニーズが、地域・広域センターには「関係機関との連携や役割分担の整理」についてのニーズが見られた。

２．ワークサンプルホームワーク版開発の意義

以上のニーズから、開発のポイントは以下のように整理できる。

まず、教材の開発ニーズに対応するワークサンプル開発が求められている。また、開発した教材とあわせ、教材の活用方法や障害の補完方法を身につけていくための支援技法を示す必要性も高い。まず、開発された教材を活用する場合には、家族や対象者は具体的な結果を得られることが必要である。また、それらの結果を基に対象者と家族が話し合えるよう、対象者による自己評価と家族による他者評価を課題実施の際に並行してすすめることを基本とする必要があろう。さらに、教材の活用をきっかけに、対象者と家族の障害理解が深まることや具体的なレベルでの障害理解に繋がる可能性も出てくると考えられる。このような効果をもたらすために、職リハサービスを行う関係諸機関は、家族が支援を始めるきっかけ作りや、支援の土台となる基本的な補完方法を導入する役割を担う必要がある。また、これらの機関では、家族だけで支援を継続することを期待するのではなく、定期的に間接的な支援を中・長期的に行う役割がある。

職リハサービスに携わる関係機関は相互に連絡を取り合い、トータルパッケージの実施結果を含めた情報交換を行うことで、より高い支援効果を望めることになると考えられる。

（詳細は巻末「MWS ホームワーク版の概要」を、また、活用状況については第 2 章を参照されたい。）